# 会　議　録

| | |
|---|---|
| 名　　称 | 平成３０年度第１回地域保健協議会 |
| 日　　時 | 平成３０年１０月２９日（月）　午後２時から４時 |
| 場　　所 | 目黒区総合庁舎　４階　特別会議室 |
| 出席者 | （委員）西脇会長、今井礼子委員、吉田敏英委員、寺田委員、島田委員、吉田武久委員、佐瀬委員、渡部委員、宮川委員、金内委員、小川委員、團村委員、百瀬委員、小林委員、宮本委員、今井孝志委員、九頭竜委員、高橋委員<br>（区側）石原健康推進部長、島田健康推進課長、手塚生活衛生課長、橘碑文谷保健センター長 |
| 配付資料 | ◎　平成３０年度第１回目黒区地域保健協議会次第<br>資料１　細菌性赤痢の集団発生に関する資料<br>資料２　目黒区自殺対策計画素案<br>資料３　目黒区の食中毒の発生状況説明資料<br>資料４　「ゆりかご・めぐろ」事業説明資料 |
| 会議次第 | １　開　会<br>健康推進部長挨拶<br>２　議　事<br>（１）細菌性赤痢の集団発生について<br>（２）目黒区自殺対策計画素案について<br>（３）目黒区の食中毒の発生状況について<br>（４）「ゆりかご・めぐろ」事業について<br>３　その他<br>４　閉　会 |

会議の結果及び主な発言

１　開　会

区側挨拶（健康推進部長）

２　議　事

（１）細菌性赤痢の集団発生について

資料１により健康推進部長が説明。

会長：今後の情報提供は区のホームページを窓口として行っていくのか。

区側：ホームページに公表して情報提供していく。

（２）目黒区自殺対策計画素案について

資料２により健康推進課長が説明。

会長：東京都の中で比較すると、目黒区の自殺者数は少ないほうであると言えるのか。何年計画の取組であるか。

区側：目黒区の自殺率は２３区の中では、高いほうから数えて２０位前後を推移してきた。昨年度は順位が若干上位になったが、おおむね自殺率は特別区の中では低いほうである。
８年計画での取組である。

会長：目黒区における自殺者の内訳の中では働き盛りが多く、都の施策に加えて目黒区独自の施策として働き盛り世代の方々に手厚く支援するという理解で良いか。

区側：働き盛り世代の方々は、仕事や子育て等の様々な課題を抱えており、目黒区としては、その世代にスポ

ットを当てて取り組んでいきたい。

委員：自殺者の生活状況として、３分の２の方が家族と同居しているが、親の介護による疲れが要因となっていることはあるのか。

会長：自殺の要因として、健康問題が多いという報告であるが、健康問題として捉えられている中に、親の介護による疲れが含まれていると考えられるのではないか。

区側：自殺の原因については国から分析結果資料が送られてきているが、細かく分類されていないため、要因の詳細はわからない。健康問題として分類されている中に介護疲れ等が含まれているのか、読み取れない状況である。

委員：素案では、区内の大学への情報の提供についての記載があるが、どのような形で情報提供を行っていくのか。

区側：生活が変化する時期でもあり、大学生の中には心理的に不安定になる方もいる。情報を提供していく必要があると考えている。イベントの際にパンフレットを配付すること等を考えている。

（３）目黒区の食中毒の発生状況について

資料３により生活衛生課長が説明。

会長：３０年度に東京都の食中毒の発生数が増えているが、何による発症が多いのか。また、食中毒が増えている要因は何か。

区側：原因菌はカンピロバクター・アニサキスが多い。特にアニサキスによる食中毒が増加している。海水温度が高いことが、アニサキスが増える原因の一つとして考えられる。

委員：アニサキスは目視で確認するとの説明であるが、専門家でなくとも誰が見てもわかるものか。どのような大きさか。

区側：白く、うず状になっていることが多く、専門家でなくてもわかる。特に生のイカ等に寄生しているものはわかりやすい。大きさは、丸くなっていると５ミリ程度、伸ばすと２・３センチ程度である。

委員：食中毒を減らす取り組み状況について教えてほしい。

区側：区民に対しては、区報やホームページ等による広報活動を行っている。飲食店事業者に対して衛生講習を定期的に行っている。また、飲食店の立ち入り検査の際に事業者に対して指導を行っている。
区民に対しては、保健所の前のスペースで啓発の展示を行い、アニサキスの実物を展示している。

委員：報告例は食中毒発生のうち、ごく一部であるという理解で良いか。

区側：実際に食中毒による処分の対象となる事例は９月３０日現在で４件であるが、届け出を行わない例もあるので実際はもっと多いと思われる。

（４）「ゆりかご・めぐろ」事業について

資料４により碑文谷保健センター長が説明。

委員：新生児訪問は１００パーセントできるのか。また、妊娠届を提出したうちの、１５パーセントは妊婦面接を受けないと説明があったが、面接について勧奨をどのようにしているか。

区側：新生児訪問は出生通知書提出者の９８パーセントの方に行っている。２人目以降の出産であるため必要がないという理由で受けない方もいる。
妊婦面接については、電話・文書などで勧奨しているが、忙しくてなかなか面接を受ける時間が取れないという方もいる。地区サービス事務所に妊娠届を提出し、面接のためにあらためて総合庁舎や碑文谷保健センターに行くことが大変だということもある。勧奨の方法や受けていただくための仕組みについて検討していきたい。

委員：区外で出産する方も面接を受けることができるのか。

区側：妊娠届を出された方は、妊娠期間中に面接を受けていただければ良いので区外で出産される予定の方も

受けていただくようご案内している。

委員：最近の目黒区の出産数はどうか。

区側：過去３年の実績では増加傾向にある。

委員：働いている親は、区が主催する事業があっても行きにくい。パパの育児教室は土曜日に開催されているので、父親の参加がしやすいと思う。ハローベビークラスの開催時間はどうか。

区側：平日の午前または午後の開催である。両親の参加が可能であるが、父親の参加者は少ない。今後、父親も参加しやすいように工夫していきたい。

委員：会社によっては、半日単位の休暇が活用できるところもある。参加しやすい設定を心がけていただきたい。

会長：３０分かけて面接を行っているということだが、事業をやってみての感触はどうか。

区側：面接員は、専門の非常勤職員であるが、面接で得た情報を素早く地区担当の保健師に伝えるようにしている。妊娠期から他の機関とも連携を取り、いざというときには、早めに対応できるようになった。

委員：ボランティアセンターでは「子育てサロン」の支援事業を行っている。育児の不安、孤立を解消するための手作りの子育て交流の取組があることを、情報提供していただきたい。

区側：妊娠届を提出いただいた方へは、子育てホッとブックをお渡ししてご案内をしている。子育てホッとブックには子育てサロン等の情報を掲載している。

今後の課題として子育て支援部門と情報共有をし、ボランティアセンターともいっそう連携していきたい。

３　その他

目黒区自殺対策計画素案に対するパブリックコメントを１１月２４日まで募集しており、委員の意見についてお願いした。

４　閉　会

会長：　これで閉会とする。

以　　上